



カナタとの3位決定戦でボールをキープする池(左)(共同)

日本、押し切り悲願

で 車いすラグビー

どうとうメダルを手にした。車いすラグビー世界ランキング3位の日本は3位決定戦で、同4位のカナタを撃破。試合終了のブザーに喜びを爆発させ、コートの上でこたして選手たちが抱き合ってしまった試合だった」と語るエース、池崎の目から涙があふれた。

気迫を前面に出し、前からの積極的な守備でボールを奪って序盤でリードした。池崎と司令塔で主将の池を中心し得点を重ね、脇を固める若山、今井らは先を読んだ動きだして相手の攻撃を度々寸断。ミスを連発した準決勝の米国戦の反省から「正確で安全に」と心掛ける冷静さも忘れず、手ごわい競技の母国を相手に主導権を握って押し切った。



ディフェンスに戻る乗松(共同)

覇権を争う位置まで成長。池崎は「全責ラグビーの力を何度も強調し、池も「今できることを最大限にコートで表した。喜びを止められない」とむせび泣いた。

新たな歴史を刻んで一つの挑戦が終わった。それでも選手は満足しない。頂点を逃した悔しさが心から消えることはない。乗松は「絶対メダルを取って帰りたい。今回は銅メダルで、まだ上がある。しっかり4年間頑張る。東京で金メダルを取れるようにトレーニングを頑張りたい。」

最高の気分

乗松聖矢の話 最高の気分。絶対メダルを取って帰りたい。今回は銅メダルで、まだ上がある。しっかり4年間頑張る。東京で金メダルを取れるようにトレーニングを頑張りたい。

すくすくメンバー

萩野晃一監督の話 最後まで気が抜けなかった。選手が落ち着いてきたのがすごく良かった。初代のメダリストになる、このチームならなれると話し、準備をした。すくすくいいメンバー。

(共同)